

令和 7年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

心豊かにたくましく生きる子 ○自分で考え行動する子 ○友達と育ち合う子 ○健康で心と体の強い子

2. 本年度の重点目標

「笑顔かがやけ！ わくわくする 挑戦へ」
 ― 「体づくり」「気持ちづくり」を支える環境構成と援助の工夫を探る ―

3. 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・担任会議や職員連絡会を定期的に行い、行事や遊びについてPDCAサイクルを繰り返し、保育の改善に向けて共通理解を図った。 ・園内研修は他園に保育を公開し、外部講師の助言や研修を受け、主に運動遊びについての実践的指導力の向上に努めた。また、外部研修だけでなく、オンライン研修も積極的に申込み、できるだけ多くの職員が研修できる機会をもった。今後は園内で計画的に研修を行い、他クラスの保育実践を学ぶ機会をつくり、互いの資質向上につなげていきたい。 ・園務分掌については、各担当を明確にした上で責任を果たせるよう声を掛け合い、協力体制が取れるように心掛けた。	B
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○園児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・低年齢児は、生活習慣が身に付けられるようスモールステップで進めていき、できるようになったことはしっかり褒めて自信につなげたり、家庭にも発信したりして自分のできる喜びにつなげた。 ・園児の興味関心を探り、主体的に遊び込めるよう時間を確保したり、季節感漂う室内外の環境を整えたりした。また、園児との関係づくりを重視し、個々の発達段階を捉えた上で関わり方を考え見守ったり援助したりして、楽しく園生活が送れるよう工夫した。 ・一人一人の得意なことや力が発揮できるようクラスの中で認めたり、主張できる場をつくったりした。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・生活実態が異なる保護者の実情を把握し、個別に相談にのったり、場合によっては専門機関につないでしして支援を行った。 ・未就園の親子が園生活を体験できるよう、毎月1回園庭を開放して園児と遊びの場を共有したり、子育ての不安や相談にのったりした。 ・家庭教育講座では、遊び心をもちながら子育てを楽しんでいける方法を、トークだけでなくレクリエーション要素も取り入れられた講師をお招きし、子育ての楽しさを学ぶきっかけにした。 ・育児の楽しさを実感しながら親子の交流を深められるよう、「すくすくひょうごっ子」の活用を、園経営や文書で促していった。	A
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底 と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・毎月、保育室や園庭の安全点検を行い、整理整頓や清掃は職員間で徹底し行った。 ・毎日の看護日誌を翌日の早期の職員と共有し、登園時の疾病や怪我の状況の把握に努めた。 ・必要時、朝礼で情報発信し全職員と情報共有を心掛けた。 ・毎月の避難訓練で、職員、園児の動きを確認していたことで、実際に震度1の地震発生時、速やかに行動に移すことができた。 ・救命講習に加え、病態についてなどの説明を行い意識を高めた。 ・季節性の感染症の流行が目立つ一年であったが保護者との情報共有のため、メールで随時配信を行いつつ玄關での情報発信を行った。	A
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・五感を使って直接な体験ができるよう、野菜の栽培活動や生き物の世話教育課程の中に位置づけた。それぞれの活動において、命あるものを大切にしようとする思いや、生長過程の中で探求心が育っていた。 ・同一年齢だけでなく、異年齢での活動を意図的に計画し、場を工夫したり、関わりが広がるようなグループづくりを行ったりして、憧れや思いやりを育む機会とした。 ・遊びや生活の中で、言葉遣いや行動について相手の立場に立って思いに気付けるように、思いを代弁したり言葉を掛けたりした。また、トラブルが起きた際は、クラス内でも取り上げ、皆で解決策を考えられるようにした。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・今年度より、配慮を必要とする園児に対し「まなびプラン」を活用した。指導の方向性や支援の具体策については、個々の発達に見合った目標設定を保護者と共に進めた。 ・今年度より始まった「5歳児健診」では、事前事後に健康課と情報の共有を図った。 ・安心して過ごせる空間をつくったり、見通しがもてるようなスケジュールを可視化したりした。 ・支援方法や関わり方で、担当者だけが悩ま込まないよう、園全体で知識を高めていく必要がある。今後も定期的に支援部会をもち情報共有をしていきたい。 ・就学前に進路先に悩む保護者に対して、小学校と連携し、1学期中に授業見学や相談の場を設け意思決定につながることもできた。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・家庭内での親子の対話につながるように、その日の遊びや生活や友達との関わりの様子を、コミュニケーションを作成し玄關に掲示すると共に、各家庭にメールで配信した。また、園児の学びや成長の記録を可視化し、参観前に見ていただいている。今年度より、全ての家庭連絡をメール配信に切り替えたが、クラスだよりなどは紙面配布の要望もあるため、検討課題である。 ・毎日の連絡帳や降園時に園児のかわいいエピソードや成長を伝え、信頼関係に努めた。また、家庭内での悩み事の相談を受け、共に考え、園児が戸惑わないよう、家庭と園との関わりが同じものになるように保護者の思いを傾聴した上でアドバイスをすることもあった。 ・花見やフェスティバルなどの腹芸術鑑賞など、地域に出かけ触れ合うこともできたが、年度初めにとどまってしまう。次年度は、高齢者との触れ合いなど、更に働きかけていきたい。 ・幼小交流では、年間計画を立て、活動に見直しや互いの成長を伝え合うようにした。 ・学生を受け入れ職場体験をしてもらうことで、保育現場の楽しさをってもらう機会になった。また、園側にとっても刺激が多く、互恵性をもたらす機会になっている。	B

園名 加西市立加西こども園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・目標設定がされ、職員間で自己点検の上で改善策を策定されていて適切である。
 ・全体的に教育・保育にしっかりと取り組まれ丁寧に園児に関わり、振り返りも大切にされている様子が伺える。また、保護者対応もより伝わりやすい方法を工夫されている。
 ・今後も何事にも全職員で共通理解をし、更なる向上心をもって学び続けていてほしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・職員数が多くて共通理解が難しい中でも、職員の資質向上に向けて、保育理念の共有を図りながら、日々の保育を丁寧に実践・振り返りされている姿は素晴らしい。 ・職員が行っている研修内容を保護者と共有することで、今以上に保護者も安心し、園の見方が変わってくると思う。 ・園務分掌については、各担当者が責任をもって実践されている。個々の内容を振り返りながら、反省やアドバイスを基に、全体的に教育・保育の底上げにつながることを期待する。
・園児の主体性を大切に、園児中心の保育をするように工夫・配慮されている。褒める保育を心掛けておられ、体の成長だけでなく心の成長にも努められている。 ・遊びを含めた保育の過程を、おたよりを通して丁寧に保護者へ伝えられている。一人一人が主張できる場をつくっておられた結果が、生活発表会でも垣間見れた。 ・職員間で個々の情報共有を行ないながら、初めて園へ預けられる保護者に対しては、特にきめ細やかな配慮を、引き続き、お願いしたい。
・未就園児や保護者が触れ合える場を設けたり、個別相談を行ったり、時には、専門機関と連携を図りながら、今後も地域貢献に努めてほしい。園庭開放時には、職員だけでなく、在園の保護者と話ができる場があると、園選びの参考になるのではないかと。 ・子育て支援としての預かり保育等の充実はいよいが、親子での関わり大切さを、今以上に啓発して欲しい。そのために、すくすくひょうごっ子」の活用を継続して促してほしい。
・安全管理に対するマニュアルが確立され、訓練や問題点の確認もされている。しかし、職員は異動があるので、年ごとに周知を図ってほしい。 ・集団生活において感染症拡大は避けられないが、感染症対策や玄関先やメール等の感染状況の発信がされていて、保護者も安心されていると思う。引き続き、研修で最新の情報を得ながら、意識を高めてほしい。 ・ヒアリハット事例をデータベース化し、園舎や園庭の遊具を含む環境について、定期的に見直しできればよいと思う。
・道徳・人権教育は家庭教育も大きく影響していると感じるが、園児にとつての初めての社会生活の場となる園生活での経験は、園児の成長に大きな影響を与えると思う。友達と関わる中で、トラブルが起きた場合は、みんなで話し合う場を設け、互いの立場を考えながら解決しようとしているクラス運営が素晴らしい。 ・異年齢との交流を意図的に計画し、関わりが広がるように工夫されていて、その結果として、九会地区の子どもたちが積極的に異年齢との交流を楽しもうとしているので引き続き、継続してほしい。
・専門機関と連携を取りながら、個々の発達に応じた丁寧な関わりをされている。今年度は特に、保護者と共通理解の下、スケジュールを進められたようなので保護者の安心につながったと思う。生活発表会においても、全園児、無理なく参加し、活動を楽しむ姿が見られて良かった。
・園内での様子を、各家庭に伝わりやすいよう、配信方法を工夫されている。広く呼び掛けて、たくさんの保護者に園行事などに参加していただくことで、園児の成長を共に喜び合えることができたと思う。その時の成長やエピソードを素早く伝えるには、大変な苦労があったと思うが、園への信頼につながると思う。 ・地域の中での園の立ち位置は難しいところだが、地区のシニアクラブなどの行事とリンクできれば、高齢者との接点が増えると思う。 ・小学校に隣接している環境をいかし、計画的に連携を取りながら児童の様子を見たり、交流を深めたりして欲しい。 ・運動会行事で、保護者が携帯やビデオだけを見るのではなく、保護者参加型のプログラムも入れられ、保護者だけの取り組みを園児が応援できる内容も検討していただきたい。